

あくあく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol. 21 2009. 2

<http://fukakoku.net/>



↑ 深川国際交流協会総会



↑ インターナショナルデー クイズ「漢字で感じて！」



↑ インターナショナルデー ジェスチャーゲーム



↑ 青少年カナダ交流訪問団壮行会 パフォーマンス披露



↑ 青少年カナダ交流訪問団派遣 ブッチャートガーデン見学



↑ 青少年カナダ交流訪問団派遣 アボツフォード市役所訪問

若者が飛躍の好機をつかむ国際交流

深川国際交流協会 会長 小瀧 聡

平成20年は、ここ近年にはないくらい、活発な国際交流が行われた年でした。カナダへの公式訪問団が派遣されたこと。また、その訪問団員がその交流の成果を公の場で報告し、報告書としても配布され、広く市民の方たちの目に触れる機会がありました。

また、アボツフォード市からは二人の高校生が1ヵ月半ほど市内でホームステイをしながら、市役所職員の献身的支援の力を借りて、深川東高での勉強と市内の多くの市民や団体の協力を得ながら、日本文化の体験を行いました。この二人のカナダ人高校生にとりまして貴重な体験となりました。

日常的には、今年から拓大で学ぶ留学生が増えたこと。その国籍も6ヶ国となったことから、留学生を通しての異文化体験の幅も広がり、深川市の各種行事で、彼らの姿が目につくようになりました。また、まだ日本語力が十分でない学生に対して、深川国際交流協会の会員が進んでボランティアで日本語教師となっただけでなく、日本語指導ばかりではなく、市民との橋渡しの役も果たしていただき、留学生が暖かい雰囲気の中で過ごす環境づくりに大きな役割を果たしてくれています。

それにしましても、アメリカ発の金融恐慌は瞬間に世界を席巻しました。世界のどの国もグローバル化の流れに密着にかかわっていることを実感させられる年となりました。

こんな時代だからこそ、これから社会人として羽ばたく若者たちに、世界を見て、異文化を体験する機会を作ってあげることは、ますます重要です。そしてさらに重要なことは、日本人として、自国の歴史文化とその役割を深く理解し、世界に向かって堂々と自分の意見を述べるができる人間の育成です。激動する世界で、もっともっと日本が果たすべき役割があるはずなのに、それができていないもどかしさを感じているのは、私だけではないだろうと思います。

深川国際交流協会が続けてきた、青少年を中心にすえた国際交流の地道な活動から、多くの意欲的な人材が育ち、すでに社会の第一線で活躍しております。これからも、深川市内だけではなく、広く世界の若者たちに飛躍のきっかけを与え続けたいと願っております。

深川国際交流協会総会開催

4月22日(火)、プラザホテル板倉にて「深川国際交流協会総会」を開催いたしました。

今回の議事は、2007年度事業報告及び決算報告、2007年度監査報告、2008年度事業計画(案)及び予算(案)についてでした。

2007年度事業報告では、限られた範囲ではなく、もっと広い範囲で会員の協力を得ながら国際交流事業を行うことが必要との意見が出されました。

2008年度事業計画(案)では、青少年カナダ交流訪問団派遣以外にも日本の学生とカナダの学生が絵を送り合うなど、お金をかけない国際交流も考えてほしいとの意見が出されました。



インターナショナルデー

深川国際交流協会 国際理解部会長 中川 良平



国際ソロプチミスト深川との共催で、多くの留学生、AETに参加して頂き「インターナショナルデー」を開催しました。

昨年に引き続き、カナダ組(過去に青少年カナダ交流訪問団に参加した子供たち)に企画段階から参加してもらい、とても素晴らしい内容になりました。

まずAETによる、日本に来て不思議に思ったことを当てるゲームに続き、英語を使って自分と同じ月、または月日に生まれた人を多く探すゲーム。

次は、テーブル別にチームを作り、問題をジェスチャーで伝えて英語で答える、ジェスチャーゲーム。

そして、コーヒープレイクをはさんでのダンスタイム、今回はマカレナを踊りました。欠席された会員の皆さん、次回はぜひ参加してみてください。楽しいですよ。

はじめてのパークゴルフ

深川国際交流協会 国際理解副部長 笹口 和子



六月の爽やかな一日、パークゴルフで汗を流しました。

パークゴルフは初めての体験なので何もわからず、チームの方に一から教えていただきスタートしました。右の方向へ打ったつもりが左へ飛び、20センチ先のホールも見事に外れ、意気込んで振ったら空振り・・・とこんな具合で周りの人に大いに迷惑をおかけしながらようやくホールに辿りつきました。

スポーツといえば私は時々、総合体育館にランニング、ストレッチ、筋トレをしにいきます。毎日とはいきませんが健康維持、老化防止、ストレス解消など理由はいろいろ。効果はともあれ、体を動かし汗をかくと気持ちすっきり、アイデアも浮かびます。

今回パークゴルフで多数の人と一緒にプレーをし、スポーツを通して人と人の間に新しい発見がたくさんありました。企画して下さった会員交流部会の方、ご苦労様、そしてありがとうございました。

大盛況親睦の集い

深川国際交流協会 会員交流部会長 松田 俊雄

7月16日（水）、プラザホテル板倉にて「親睦の集い」を開催しました。

会員の交流・会員の拡大・資金の造成と欲張りな目的を掲げての集いでしたが、昨年を上回る多数の参加を頂き、感謝申し上げます。

今年は、拓大北短の留学生全員を招待して、学生にも喜ばれましたが、本当の国際交流親睦の集いになりました。又、国際交流協会の活動を理解して頂くために、年度別に写真で事業を紹介するパネル展示をし、参加者に活動の周知を図りました。

参加者が一番楽しみにしている抽選会では、小瀧会長・広野副会長・谷口理事長等からの提供品を含め、多数の景品を用意し参加者の皆さんに喜んで頂くことが出来たと思います。

今後の課題としては、チケット販売が昨年同様に苦慮している事です。役員皆さんの多大な協力を頂いている所ですが、全会員の協力と理解が必要と考えます。

「会員交流部会」では、会員の交流と会員の拡大を目的に、今年はパークゴルフと親睦の集いを行ないましたが、皆さんの希望等をお寄せ頂きたいと存じます。



2008 青少年カナダ交流訪問団派遣

2008年7月24日から8月8日の行程で青少年海外派遣事業(青少年カナダ交流訪問団派遣)を実施いたしました。青少年カナダ交流訪問団のカナダの感想など詳細は、青少年カナダ交流訪問団報告書に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

★日程・メンバー紹介★

月日	主な研修・活動内容
7.24	▪ 深川出発～バンクーバー国際空港へ
7.25	▪ グランビルアイランド、ロブソンストリート、スタンレーパーク散策
7.26	▪ ホストファミリーと過ごす
7.27	▪ ホストファミリーと過ごす
7.28	▪ 英語の授業、ホワイロックビーチ見学
7.29	▪ 英語の授業、カルタスレイクウォーターパーク見学
7.30	▪ 英語の授業
7.31	▪ 英語の授業、アグリフェア見学
8.1	▪ ブッチャートガーデン、ヴィクトリア市内見学
8.2	▪ ホストファミリーと過ごす
8.3	▪ ホストファミリーと過ごす
8.4	▪ ホストファミリーと過ごす
8.5	▪ 英語の授業、アボツフォード市役所訪問
8.6	▪ 英語の授業、さよならパーティー
8.7	▪ バンクーバー国際空港出発
8.8	▪ 帰国～深川へ

	佐藤 雄亮 (リーダー) 深川中学校 3年		秋山 龍輝 (サブリーダー) 一已中学校 1年
	一宮 祐衣 一已中学校 1年		小林 未奈 深川中学校 1年
	高村 凧沙 納内中学校 1年		鳥羽 和美 (団長・引率) 深川国際交流協会 会員

アボツフォード訪問団に参加して

深川国際交流協会 副理事長 板倉 明子

この度、夏季農作業に忙しい谷口理事長、宮田副理事長に代わり深川国際交流協会の代表としてアボツフォード訪問団に加えていただきました。国際交流協会発足以来、11年続いてきた主催事業である「青少年カナダ交流訪問団派遣」の見直しという重い責任を仰せつかった旅でしたので、私にとってはやはり主な視点は教育関係になりました。

①日本のこころ伝えるアボツフォードの柔道教室と日本語教室

非営利団体である「アボツフォード柔道クラブ」は、ブリティッシュコロンビア州で最大の柔道教室所で、1980年に、土地がアボツフォード市より寄贈され、25名の寄付を集めて設立されました。須田とくえさんと言う日本人の方を中心に8名のインストラクターと5名のアシスタントによって指導されています。



柔道の試合のマナーや礼儀、競技の前にはきちんとお辞儀をしなさい・・・など、日本古来の礼儀、礼節をしっかりと教え込んでいる様子がパンフレットからも伺えました。

そこに現れたのは、子供たちに日本語を教えている智美先生(30代の日本人の女性)と、幼児から小学校高学年までの9名の生徒さんたちでした。

この日本語学校は25年前に設立され、智美先生は三代目。毎週水曜日の午後4時から5時半まで、幼児から大人15名の生徒さんを二人の先生で教えている個人教室です。整列した子供たちは「きらきらぼし」をはじめ、日本の童謡を歌い、小学生ながら自作の俳句や短歌を披露してくれました。

遠く離れた異国の小さなコミュニティの中で、日本の言葉と文化を守っていくようにしている、お母さんたち、子供たちの姿がとてもいとおしく思われ、何とか微力ながら手助けしたい、応援したいという気持ちでいっぱいになりました。

自宅を開放して図書館にしているそうですが、教材が少ないとのことで、子供の絵本などを後日、送ることを約束してきました。(帰国後、6名のメンバーの協力で絵本や教材を段ボール2箱、当地に送り届ける事ができホッとしております。)

②アボツフォードの新しくできた中学校訪問

この中学校の特色は「国際バカロレア」の認可を受けた「全人教育」にあり、その素晴らしい教育理念には深い感銘を受けました。

「国際バカロレア」は1868年にヨーロッパで設立された非営利の教育機関です。スイス法典により財団として認定され、ヨーロッパからアメリカ、アジアへと活動を拡げています。

世界のどこの大学にも通用するディプロマ（大学入学資格）のため、世界共通の教育プログラムはイギリスのオックスフォード大学で検討されました。生徒たちは2年間の教育の後、試験に合格すると成績に応じて欧米のほとんどの大学へ無試験で入学が許可されます。

1992年には中等教育課程が、1997年には初等教育課程が始まり、国際バカロレアの基本方針としての「全人教育」を小・中・高で一貫して行なうことが可能になったのです。

バカロレアの目指す「全人教育」とは、バランスのとれた人間を育成することで、異文化に対する理解力と寛容性を養い、自分で考え行動できる人間を養うところにあります。

特にユニークな点は、最終のディプロマ（大学入学資格）コースにあります。

その生徒が理系であろうと文系であろうと「文学」が必修となっていて、自分の最も得意とする言葉で文学作品を読み、自分の解釈を説得力のある形で小論文にまとめ上げること、更にそれを口述発表することが要求されています。

「人はいかに生きるべきか」「人としてどうあるべきか」を問い、何よりも自己の哲学の確立を優先する「全人教育」の理念は、ヨーロッパならではの深い文化の母体から生まれたものだと思います。

超エリート教育とはいえ、人間の本质に迫る真摯な教育理念が、ヨーロッパから世界中に広まりつつあることを知り、とかく経済優先の昨今の中で、閉塞感を吹き払うような大きな癒しを感じました。

詳しくは「国際バカロレア・世界トップ教育への切符」田口雅子著『松柏社』を読んでみてください。

ちなみに2008年6月にスペースシャトル「ディスカバリー」に搭乗した宇宙飛行士の星出彰彦氏もバカロレア校の卒業生だそうです。



③フレーザーバレー大学及び34学区教育委員会主催の昼食会



中学校訪問後の午後からは、フレーザーバレー大学関係者と34学区教育委員の皆さんとの昼食会が用意されました。34学区教育委員会は、国際交流協会主催事業の青少年カナダ交流訪問団派遣を直接お世話いただいている教育機関です。

昼食会の中で教育委員会理事長のシェファアさんと同席だった、団長の山下市長と高田さんが青少年カナダ交流訪問団派遣に関して深川側の希望を話題にのせて下さいました。中学生の派遣に高校生を加える点については「依存なし」とのことでしたが、「詳しくは10月に委員の選挙があるので新しい役員が決まってからにしたい」とのご意向でしたので、時期を待つことにしました。

幸い、選挙ではシェファアさんが再選されたようですので、年賀状と一緒に、私信でしたが「ホームステイ費などをボランティア価格で提供していただくことにより、より少ない負担金でより多くの学生に参加のチャンスを与えたい」旨をお伝えしました。

平成2年（1990年）に始まったフレーザーバレー大学と深川の拓殖大学間の交流が、今日の深川、アボツフォードの姉妹提携の基礎となったわけで、両大学の関係が益々発展し、未長く続くことを願いながら、校内を見学させていただきました。

～全体を通しての感想～

国際交流協会設立前に、事前調査団として12年前にもアボツフォード市を訪問いたしました。姉妹提携を経て10年。今回の訪問では両市間に本当に親密度の濃い交流がなされていることを肌で実感し、交流の成果が着実に実ってきていることを確信しました。

国際交流は何といっても、互いに「会う」というスキンシップが基本ではないでしょうか。今回は経済的な事情からも、公式訪問の期間を4年から6年に提案いたしました。いずれ事情が許せば、もっと互いに会える機会を作る方がやはり良いのではないかと感じました。

「交流相手はカナダばかりでいいのか」という意見もこれまで何度か聞きましたが、今の深川市にとってはやはり「カナダ」が一番、アボツフォード市とのお付き合いが適切ではないかと私は感じております。町の大きさ、施設の規模は違っても、豊かな自然と資源に恵まれ、広い農地をフレーザー川が流れるアボツフォード市と深川市は良く似た風景が広がっています。そこに住む人々の心の豊かさは、深川市民や青少年に、きっと貴重な人生の財産を残してくれる筈です。

何よりも拓大とフレーザーバレー大学との交流基盤があることが有難いと思ひますし、英語圏であることで言葉の問題も比較的解決し易い点もあります。

また、この経済の厳しい時に国際交流か、という意見もあるかと思いますが、現在、深川で街づくりに熱心に取り組んでおられる方々には、海外に出た経験のある方が大勢いらっしゃると思います。ヨーロッパに長く滞在のご経験のある市長さん、そして農業研修や商店街視察で多くの青年たちが海外に出ました。アボツフォード市や様々な外国を視察された議員さんをはじめ、国際交流協会の皆さん、また農協の組合長さんをはじめ要職にある方々は皆、深川市を外から見る目

を養われた方が多いと思います。そういう人材を育て続けていくことが、この地域が良くなる一番の原動力になるのではないのでしょうか。

今、お腹が空いているからといって明日撒く種まで食べてしまう人はいないでしょう。苦しい時ほど明日のために備えることが、豊かな未来を作る鍵となるのではないのでしょうか。

かつて我々の先人たちが貧しい暮らしの中から、身を削っても子孫を教育してくれたように、私たちも今、厳しい中だからこそ青少年を海外に送り出し、広い視野を持った、見識の高い人材を育てていかなければならないと思います。そしてわれわれ大人もグローバルな感覚を持って、この地域作りをしていかなければ、将来に「悔い」を残すことになるのではないのでしょうか。

高校生の交換留学生制度について

平成 10 年 9 月 14 日に姉妹都市提携した、カナダ・アボツフォード市と深川市では、平成 14 年度から高校生の交換留学を実施しています。5 回目の実施となる今回は、平成 20 年 9 月 7 日～10 月 18 日までの 6 週間、アボツフォード市から 2 名の留学生（ローガン・ハーダーくん、テラー・ヘンドリックソンくん）を受入れていただきました。

留学生がお世話になりました、ホストファミリーの佐藤さんと納村さんに留学生受入れの体験を書いていただきましたので、ご覧ください。

新しい息子を迎えて

ホストファミリー 佐藤 松文

2008 年 9 月 7 日午後 11 時、市役所の応接間に彼らが居た。大きな体をして長旅とこれからの生活の不安が顔に表れていた。自己紹介が始まり私たちも緊張が走った。握手をして市役所を出て車に乗った。その人は「ローガン・ハーダー」カナダ人の交換留学生である。

2007 年私達の息子がカナダのアボツフォード市へ交換留学生として 6 週間お世話なり、今度はその大役をおおせつかったのである。私ども家族もある程度、心の準備が出来つつもりていたが、いざ会って見ると大丈夫かと心の中をよぎった。しかし、ローガンも直に慣れ言葉が通じなくても心で話す事になったが、その時その時で何とかいくものであった。

稼業が農業の為、1 年の中で 1 番忙しい時期で花や水稻の収穫の時期で思うように接待が出来ず心苦しく思っていました。その分私どもにも変わってそれぞれの立場の人達が自ら進んで地方の見学や体験をさせて頂き、又親交を深めさせてもらい心から感謝申し上げます。家庭生活に於いても何の不安もなくローガン自身で生活のリズムを作り生活をして居りました。

夕食にはパソコンで彼の家族の写真を見たり、マップでアボツフォードの町や彼の住んで居る住宅やこれから進学するであろう大学の場所を見たりして楽しく過ごしたのが思い出されます。

2008 年 10 月 18 日朝、いよいよ今日は帰国の日である。何日も前から家族のおみやげを用意し郵送するのを諦め数個のバックに詰め込んで、記念写真を家族全員で撮り市役所へ。もうそこには多くの見送りの人達が集まって待ちました。同級生や家族又関係者が別れを惜しんで写真を撮り合いました。ローガンも今日はカナダに帰る事もあって無事 6 週間を深川で過ごした安ど感で、何時になく笑顔で対応していました。いよいよ出発の時間がきて、大きな体で車に乗り込み、大きく手を振りながら去って行きました。

最後になりましたが、深川市をはじめ、深川東高等学校の先生方並びに生徒の皆さん、深川国際交流協会や市役所企画課の皆さん、又拓殖大学北海道短期大学や、多くの地域の人達のご支援をいただき、なんとかこの大役を遣り終える事が出来ました事に、私達家族も幸せに感じて居る所です。これからも深川市が国際都市として益々多くの外国の人達と交流を深められ、又ご発展される事をお祈りいたしまして体験記にさせていただきます。



ホストファミリーを体験して

ホストファミリー 納村 多加美

留学生を預かり、あっと言う間の 40 日間でした。最初、市役所の方からホストファミリーをしてほしいと言う話してきた時は、何とか学校の近くのホストファミリーでと言う事を頼みましたが、話が進んでいくうち、息子が昨年お世話になった家の子が来ると言う事で、不安一杯でしたが預かる事に決めました。

9 月 7 日、市役所まで留学生を迎えに行き挨拶を交わし、とても明るい子だったので安心しました。それからドタバタな 40 日間のスタートでした。

朝の挨拶は、オハヨー、元気ですか。学校からの帰りは、ただいまではなく、オカエリでした。食べ物の好き嫌いは、ほとんどなく何でも食べてくれました。特に寿司（のり巻、いなり）、肉じゃがが好きでした。家族全員が英語が苦手、身振り、手振り、悪戦苦闘の毎日でした。



ある日の事。息子に用事が出来、テーラーと別に帰る事になった日、お父さんが深川駅まで迎えに行くので駅で待ち合わせして時間まで待つて居たけど会えなくて学校まで見に行っても居なくて、ひょっとしてバスに乗って帰ったのだと思います、バス停まで迎えに行ったらバスから降りて我家に向かって歩いていました。見付けて一安心。（テーラーも心細かったのでは・・・）

後でテーラーに聞いたら帰る途中、いつも自分が乗っているバスが目の前を過ぎて行ってしまったので、慌ててバスを追い掛けて飛び乗ったそうです。

私達も仕事が忙しくて何処にも行く事が出来ない為、色々な人達に助けってもらって40日間のホストファミリーを何とか終える事ができました。ひょうきんで、ちゃめっけたっぶりのテーラーでした。

やさしい中国語講座開催

深川国際交流協会と拓殖大学北海道短期大学では、9月18日～12月4日までの毎週木曜日、全12回「やさしい中国語講座」を共催いたしました。

講師に拓殖大学北海道短期大学の辛先生を迎え、受講者は11名で和やかな雰囲気です講座が進められました。

6名の受講者の方にやさしい中国語講座の率直な感想を述べていただきましたので紹介いたします。



～「やさしい中国語講座を受講して」 田中 慎吾（男性）～

今回、中国語を学習する機会が与えられたことで、留学生と会話ができるようになれば良いと内心ワクワクしながら受講し始めたが、2、3回受講して「むずかしい（汗）」と分かった。他の語学と一緒に、先生の発音の後に生徒全員で真似して発音するところまでは良い。生徒さんの中には上手な方がおられるので、自分の発音がかき消され、さもうまくできているような気になっているが、一人ずつ当てられて発音するときには悪夢が訪れる。自己嫌悪に陥るために受講しているのでは、と錯覚するほど落ち込む。後半になると、先生が私のその落ち込みを察したのか、中国の文化や風景に触れる時間があり、楽しみながら学習できた。成果については宿題、予習、復習を怠った自分を責めるしかない。

～ M（女性）～

中国語の発音は難しかったが、先生が何度も熱心に教えてくださったので、なんとかついていくことができたし、楽しく受講することができました。

深川市内で、英語以外の言葉と母国語とする先生から学べる機会はないので、参加できて良かったです。

～ 拓殖大学北海道短期大学保育科 小西 修一（男性）～

六十年後、私の耳には沢山の日本語とほんの少しの英語、目には仮名文字・ローマ字・漢字が入ってきていました。今回受講させていただいた中国語の講座で、普段慣れ親しんでいた漢字がまったく異なる音で耳に飛び込んできました。脳の機能が衰えてきた年令ですがまったくその音が記憶されないのです。ただ通り過ぎて行くのです。記憶されないのが真似が出来ないのです。仕方なく何とか仮名文字に置き換えて声にしてみますが中国語にはならないのです。母国語以外の言葉を学ぶものにとっては当たり前のことなのでしょうが地道な努力以外に道は無いのでしょうか。恋人が中国の方ならば必死に学ぶのですが、そのようなことのない私は別の仕事と重なったのを言い訳に途中でリタイアしてしまいました。辛先生にはとても申し訳なく思っています。少ない時間でしたが今回の講座に参加させていただき、自分としては大好きな漢詩を中国語で詠めるようになりたいと考えるようになりました。

～「やさしい中国語講座を受講して」 Dian ye (女性)～

「簡単な会話ができるようになるといいな」と、軽い気持ちで受講しました。

日本語にはない発音の練習で、心が折れそうになったり、口の中が「筋肉痛」になったこともありました。でも、一緒に学べる仲間や、熱心に教えて下さる辛先生のおかげで、楽しく学ぶことができました。

簡単な会話ができるまでには上達しませんでした。日常生活で耳にする音の中に、中国語を見つけることができるようにはなりました。

今回の受講を機会に、これからも中国語の勉強を続けていこうと思います。

～「中国語講座を終えて・・・」 LIN (女性)～

講座が始まる前は、「12回もあるんだから、終わる頃には中国語がペラペラになっているかも？」と、甘い考えていましたが、声調と聞き取りがなかなかわからず、先生には苦勞をおかけしました。でも、中国の文化や風習などを、講座の合間に教えていただいて楽しかったです。辛先生、ありがとうございました。

～「中国語講座を終えて・・・」 chi tian (女性)～

中央公民館での講座で辛先生に講師をしていただいた縁で、今回参加しました。(その時に受講していただいた方もいらっちゃって嬉しかったです。)

仕事などで休むことがあり、生徒としては全然上達しなくて申し訳なく思いますが、TVから中国語が聞こえると、覚えたい単語が出てこないかと耳を澄ますようになりました。

辛先生、楽しい時間をありがとうございました。

「Let's be friends」(友達を作ろう)を掛け声に

深川国際交流協会 海外派遣交流部会長 北本 清貴



青少年カナダ交流訪問団報告会&国際文化交流パーティーが2月1日、プラザホテル板倉で行われた。

深川国際交流協会は青少年を対象に毎年夏休みに、人材育成と交流を目的に、深川市と姉妹都市となるカナダのアボツフォード市でホームステイし、異文化交流派遣事業を行っている。

今年度は昨年7月24日～8月8日の2週間、中学生5名と引率1名を派遣した。訪問団リーダー佐藤雄亮(深川中3年)、サブリーダー秋山龍輝(一巳中1年)、一宮祐衣(一巳中1年)、小林未奈(深川中1年)、高村凧沙(納内中1年)の5名と引率の鳥羽和美です。

青少年カナダ交流訪問団報告会では、約80名の市民が参加する中、それぞれ自己紹介をした後、カナダでの2週間の活動をスライド写真を使い説明した。その活動報告では、学校で英会話の勉強やスクラップ作りをした事、海やプールに行き遊んだ事、隣の町まで行って日本庭園や人形館などの観光をした事、アボツフォード市長と深川市の山下市長と共に昼食を取った事、さよならパーティーで「日本の遊び」をテーマにしたお手玉や二人羽織などをカナダでお世話になった人に披露した事などを報告した。

その中で特に印象深かった事が食文化の違いです。日本では味わった事のないパイやジュースが美味しかったとの報告もあったが、ケーキが甘すぎとか、グミがタイヤの様な味がするなど素直な感想に会場から笑いが漏れた。

カナダでの2週間の報告の後、全体を通しての感想では、カナダでお世話になったホストファミリーを中心にそれぞれがカナダでのホームステイが有意義に過ごせた事への感謝の気持ちが溢れる報告があった。また、カナダに行きたい事、もっと英語がしゃべれる様になりたい事など新たにやりたい事が今後の夢として語られた。

最後に、引率者からの言葉では、今回の交流訪問団が多くの人に支えられお世話になった事、「Let's be friends」という目標での沢山の出会いや新しい経験、そして中学生5名と過ごした時間やそれぞれの成長などの感想を述べた後、「今回の経験を活かし、今後更に自分自身を高めていって欲しい」という言葉で締めくくった。

国際文化交流パーティーを終えて

深川国際交流協会 国際理解部会員 梶川 いく代

今年の国際理解部会のプログラムは、事前の部会での打ち合わせで「日本の伝統文化を体験しよう」というコンセプトの下、箏みやび会小田社中による箏演奏、しののめ会による日本舞踊、そして裏千家茶道の方々による茶道体験に加え、中国人拓大留学生に中国タイ族舞踊を披露していただきました。

「さくらさくら」は、日本人はもとより留学生の心に響いたとみえ、プログラム終了後に実際に箏に触れた人の一人が深川を離れるまでの1ヶ月半の間に「さくらさくら」をマスターしたいと先生に申し出て練習の約束をしている光景がありました。

また、日本舞踊も来日して数年経つ留学生がはじめて見たと言っていたのが意外でした。

茶道体験では目の前で繰り広げられるお手前拝見や、基本的作法を教わりながらお茶を飲んだり、さらには自分の手で茶せんを使って抹茶をたてるなど、留学生ばかりでなく日本の中学生も貴重な経験をしたようでした。

中国人留学生のタイ族舞踊は私達にとってははじめて見る踊りで、踊り手の女性のとても柔らかな体の動きに会場から「ウオー」という歓声があがりました。

最後に、留学生を代表して2年生から「日本に来たときは「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」位しか話せなかったけれど、深川の人たちに支えられながらここまで話せるようになり、感謝しています。」という挨拶がありました。

国際理解部会では次年度も参加者に喜ばれるような企画を考えていきたいと思えます。





↑ 高校生の交換留学生制度事業 円覚寺見学



↑ 青少年カナダ交流訪問団報告会



↑ 国際文化交流パーティー 茶道体験



↑ 国際文化交流パーティー 琴体験

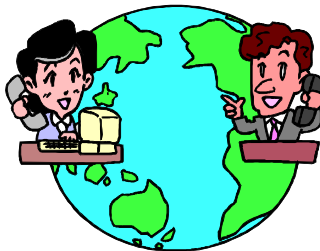
募集しています！

- ☺ 「ホストファミリー」 …………… 現在 42 家族の方が登録されています。
- ☺ 「通訳・翻訳ボランティア」 …… 現在 18 名の方が登録されています。
- ☺ 「深川国際交流協会会員」 …… 現在、一般会員 93 名、学生会員 25 名、賛助会員 38 団体です。



【問合先】 深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

世界に発信する深川地球市民



<http://fukakoku.net/>

【広報誌発行責任者】 藤岡 順子（広報部会部会長）
 【広報誌編集担当】 深川国際交流協会 広報部会
 編集長：藤岡 順子 副編集長：岡 隆史（広報部会副部会長）
 編集委員：稲田 伸人・小橋 厚子・高橋 昇・田中 由美子・寺下 良一
 南部 雄二・橋向 利勝・橋本 信・三ツ井 隆博・山田 弥佳・渡辺 英雄